

【主催】千種川圏域清流づくり委員会

「小さな自然再生」研究会 / 日本河川・流域再生ネットワーク

【協力】兵庫県西播磨県民局光都土木事務所 / 上郡町 / 千種川漁業協同組合  
公益財団法人リバーフロント研究所

## 「小さな自然再生」現地研修会（第26回）開催報告

2024年11月3日（日）兵庫県上郡町・千種川



開会挨拶



座学研修



現地踏査



ワークショップ



日本河川・流域再生ネットワーク

2025年3月



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

# 「小さな自然再生」現地研修会（第26回）

## 開催報告

2024年11月3日（日）兵庫県上郡町・千種川

### はじめに

兵庫県上郡町を流れる千種川において、「小さな自然再生でかつての千種川を取り戻そう」をテーマに、千種川の河道内に形成された二次流路を生物の生息・生育・繁殖の場とするとともに、地域の環境教育や川遊びの拠点としていくためにできる取組について、参加者でアイデアを交換しました。

この開催報告は、研修会の参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

本研修会にご参加、またご協力頂きましたの皆様には厚く御礼申し上げます。

2025年3月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

## 開催概要

- 開催日時： 2024年11月3日（日） 10:00～16:00
- 開催場所： 兵庫県赤穂郡上郡町 <座学：上郡町立赤松地区公民館／現地：千種川>
- 参加者： 44名
- 主催： 千種川圏域清流づくり委員会  
「小さな自然再生」研究会 / 日本河川・流域再生ネットワーク
- 協力： 兵庫県西播磨県民局光都土木事務所 / 上郡町 / 千種川漁業協同組合  
公益財団法人リバーフロント研究所

## プログラム

### (9:30-12:00) 二次流路を生物の生息・生育・繁殖の場とするための座学研修

- 開会挨拶
- 千種川に関する取り組み  
(横山 正：千種川圏域清流づくり委員会 ネットワーク部会長)
- 小さな自然再生のすすめ ～千種川でできることはたくさんある～  
(三橋 弘宗：兵庫県立 人と自然の博物館)
- 千種川水系における小さな自然再生事業の実践と今後の展開について  
(梶島佑太：兵庫県 西播磨県民局 光都土木事務所)

### (12:00～13:00) 昼 食

### (13:00～16:00) 小さな自然再生ワークショップ～二次流路でのエコアップを考える

- 千種川の現地踏査
- 二次流路のエコアップに向けてできることを考える  
■ 現地技術指導：三橋弘宗（同上）、岩瀬晴夫（株式会社北海道技術コンサルタント）

### (16:00) 閉 会

## 開会挨拶



主催・協力団体を代表して、千種川圏域清流づくり委員会のネットワーク部会長をお務めの横山正さんより、本研修会の開催経緯や趣旨の説明を行いました。

## 座学研修



### 千種川の環境に関する取り組み

(横山 正 : 千種川圏域清流づくり委員会 ネットワーク部会長)

- 千種川流域での大きな流れ
- 千種川プライドの根幹～千種川の川漁文化と漁協の存在～
- 千種川圏域清流づくり委員会～兵庫県と流域住民との連携～
- 次のテーマに向けて～千種川をふるさとの誇りとして心にとめられるか～

⇒ 講演資料は巻末「参考資料」を参照



### 小さな自然再生のすすめ ～千種川でできることはたくさんある～

(三橋 弘宗 : 兵庫県立 人と自然の博物館)

- 小規模技術はなぜ大切か？
- 先達の取り組み事例
- 小さな技術でも、トリガーは弾ける
- 生物多様性の状況（国内外の動向）
- 小さな自然再生とは



## 千種川水系における小さな自然再生事業の実践と今後の展開について

(梶島佑太：兵庫県 西播磨県民局 光都土木事務所)

- 千種川水系の特徴
- 小さな自然再生実施の背景
- 実施した小さな自然再生事業
- 今後の展開

## 昼食

昼食では、千種川の恵みの幸であるモクスガニ汁や地元素材のお弁当を堪能しました。



## 小さな自然再生ワークショップ（午後）

### テーマ：「二次流路でのエコアップを考える」

午前の座学では、千種川流域における市民や行政による河川環境改善に向けた取り組みや、小さな自然再生の概要と実施事例など計 3 題の話題を提供頂きました。

この午前の学びを踏まえ、当初プログラムでは、座学会場前の千種川の二次流路をフィールドに、水路掘削や湧水スポット保全、多様な流れの場の創出などの小さな自然再生の実践活動を予定しておりましたが、前日からの降雨による出水のため川の中での活動は断念し、現地踏査と室内プログラムからなるワークショップに切り替えて開催しました。



千種川へ向けてスタート

## 【千種川の現地踏査】





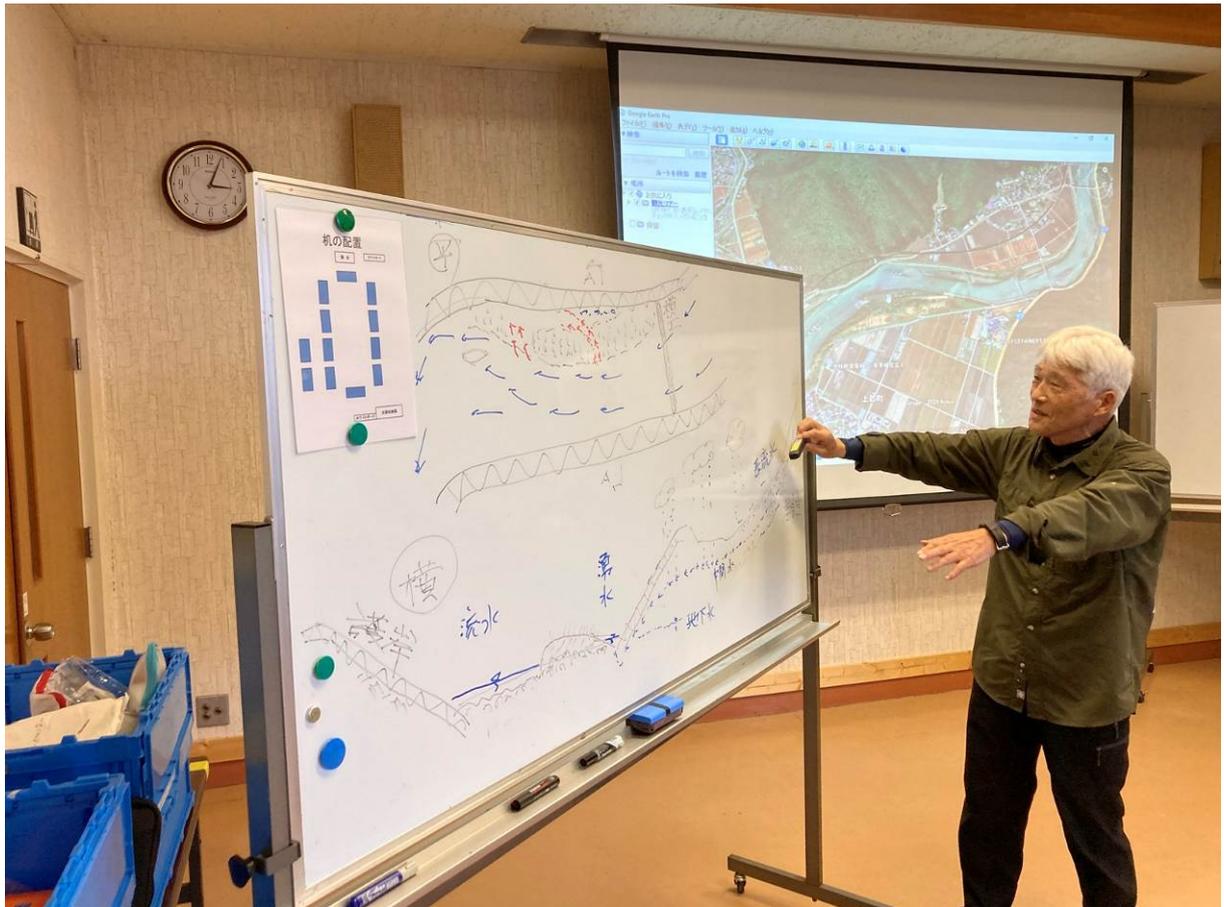
右岸側の二次流路を観察しながら生物環境や物理環境の特徴を学ぶ



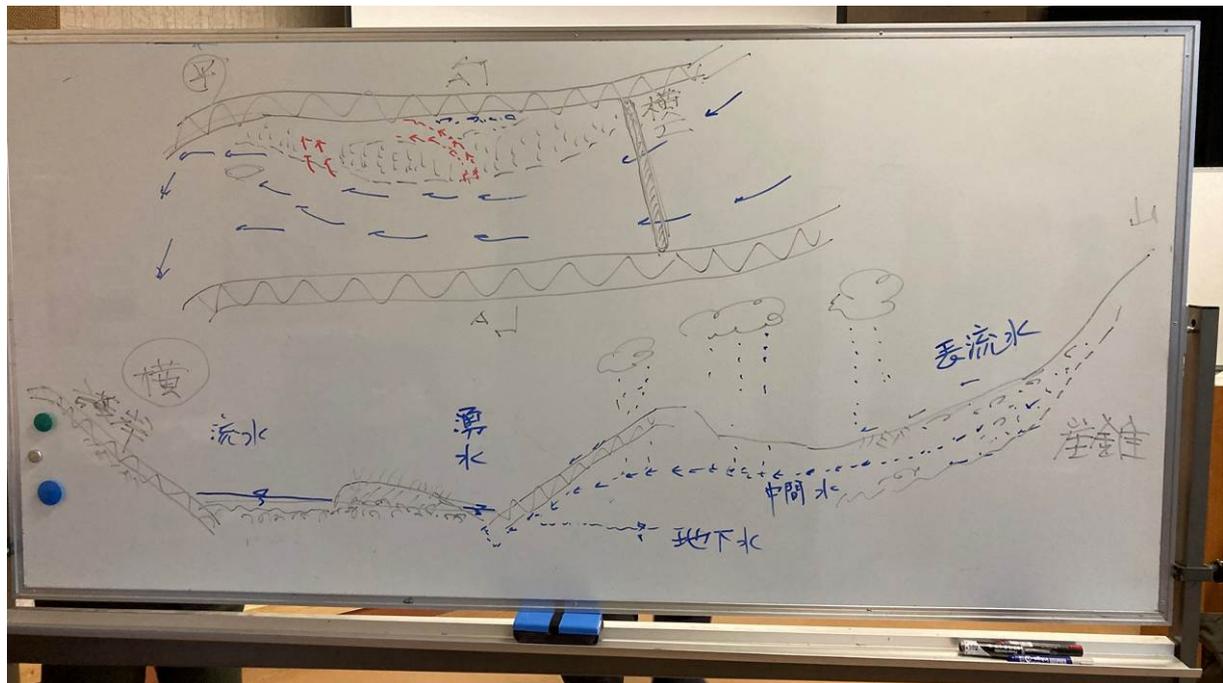
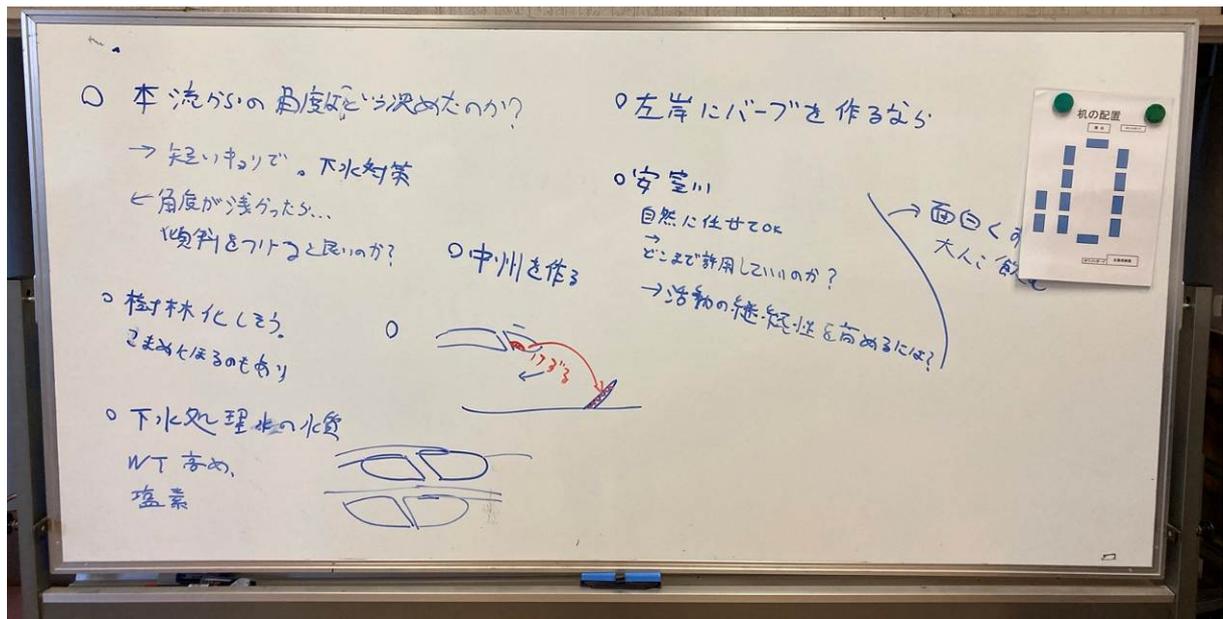
## 【室内意見交換会】



二次流路の水量を安定的に確保し豊かな環境とするためのアイデアを交換



二次流路の水量を安定的に確保するための縦横断平面の特徴の解説



二次流路でのエコアップを考えるポイントメモ

## 研修会開催後の現地の取組みと今後の予定（フォローアップ活動）

研修会の意見交換会で出された「二次流路の水量を安定的に確保するためにバープ工をつくっても、その効果が分からない」「バープ工を造った場合の砂州のシミュレーションを行うことを検討しよう」等の意見を踏まえ、現地関係者が中心となり研修会開催後に次の様な取組みを実施しました。

- 兵庫県西播磨県民局光都土木事務所が、滋賀県立大学・瀧健太郎教授を講師に、地元の上郡高校生を交えた河床変動ソフト（iRIC）の勉強会を開催（2024年12月）



- 「小さな自然再生」現地研修会に参加した上郡高校生が、河床変動ソフト（iRIC）によるバープ工と砂州のシミュレーションを実施（2025年2～3月）
- 来年度設置予定のバープ工の効果を把握するための予備調査として、千種川圏域清流づくり委員会メンバーも支援しながら、上郡高校地域環境科が施工予定場所で水生生物調査を定期実施（2025年3月～ 毎月開催予定）



上記の取組みを踏まえ、今後は研修会に参加した地元の上郡高校、主催者である千種川圏域清流づくり委員会、河川管理者である兵庫県西播磨県民局光都土木事務所が連携し、2025年度（令和7年度）にバープ工の現地施工を行う予定です。

# 参考資料 1 (座学研修の講義資料)

## 千種川に関する取り組み 講演資料 (1/2)

流域全体が昭和の名水百選の千種川に関する取り組み

小さな自然再生現場協議会(千種川)  
2024.11.09 上郡町立赤松地区公民館  
千種川流域清流づくり委員会ネットワーク部会長 横山 正

### 千種川流域での大きな流れ

- 1.千種川水生生物調査 -流域ライオンズクラブの事業-
- 2.千種川漁業協同組合 -鮎釣りや鮎漁の清流千種川-
- 3.千種川圏域清流づくり委員会 -兵庫県と流域住民との連携-

### 1 半世紀以上続く千種川水生生物調査

- 昭和48(1973)年に佐用ライオンズクラブが郡内27地点でベック・津田法による水質判定調査を開始
- その後、千種・上郡・相生・赤穂のライオンズクラブがクラブ事業として千種川全域調査を開始
- 流域の小・中・高校がライオンズクラブメンバーの支援で調査実施
- 調査結果を【千種川の生態】冊子にまとめる
- 令和5(2024)年現在も継続実施

### 小学生・中学生 指導の先生 協力あってこそ

### 「千種川水生生物調査」の50年から現在へ

【千種川の生態 第1集】より

○調査開始の時代背景  
科学技術の一大進歩や世界経済特に日本の経済活動の規模拡大は私たちの生活に大きな恩恵を与えてくれましたが、その反面大気汚染や水質汚濁など各種の公害をもたらし、大きな社会問題となっています。私たちの地域に於きましても日常生活に大きな関心をもち、それを知らずして水質汚濁の問題が顕在化しつつあります。昭和49年7月 佐用ライオンズクラブ会長 松田武夫

○科学的な調査の持つ意味  
わたしは何度かご相談にあずかったが、ライオンズクラブの方々のこの調査に対する並々ならぬご熱心さには感入った。  
(第1回目の水生生物調査を実施して)何年か経ってから、また調べてみて、今回の結果とどう違ってきたかを見ることが出来るであろう。千種川がどう変化していくか、それを知る尺度となるであろう。今回の千種川で行われた調査の意義は大きい、その結果は貴重なものである。  
奈良女子大学教授 津田松苗  
※津田先生はこの調査が半世紀にわたって毎年継続実施され続けるとは、ご想像されていたのだろうか？

### 2 千種川プライドの根幹 千種川の川漁文化と漁協の存在

- 千種町、佐用町、上郡町、相生市、赤穂市の千種川水系は、過去からアユ、アマゴ、ウナギ、モクズガニ、寒じゃこ(オイカワ)などの釣りや漁が盛んで、漁協による水環境保持やルール遵守が保たれてきた。
- 現在生組合員数は800名を超えるが、実際に川漁を実施する人数は年々減少
- 現在は専門の川漁師はおらず、川漁文化や食文化が急激に衰退中

## 千種川の環境に関する取り組み 講演資料 (2/2)

### 川漁

- ・モクズガニ袖網漁



### 川漁

- ・鮎刺し網漁



### 3 千種川圏域清流づくり委員会 -兵庫県と流域住民との連携-

- ・河川法改正に伴い、整備方針や基本計画策定に住民が参画することが求められ、県がその声を集める人材を流域全体から発掘し、それを共有する団体として2002年【千種川圏域清流づくり委員会】を立ち上げた。
- ・メンバーは県と各市長の担当者、流域各市町の川への想いを持つ住民、川に関する活動を行う団体メンバー。
- ・その立ち上げには神戸新聞情報研究所長(当時の松本誠氏が1996年に【千種川-中流域からの提言】の存在。

- ・千林会
- ・県立昆虫館
- ・佐用川のオオサンショウウオを守る会
- ・いずみ会
- ・千種川ネットワーク
- ・高雄地区ふるさとづくり協議会
- ・ライオンズクラブ
- ・千種川漁協
- ・各市や町の建設課担当

### 千種川圏域清流づくり委員会の活動

- ・千種川一斉水温調査の実施
- ・春イベント「下流域探訪」
- ・夏イベント「チチコ釣り大会」
- ・秋イベント「ブナ林探訪」「ピオトープ観察」
- ・講師派遣
- ・千種川委員会への参加
- ・県や市町の事業計画の委員会への参加
- ・メーリングリスト、SNSでの情報発信
- ・「水生生物調査のとりまとめ」
- ・【流域住民連携機能の維持】

### 流域全体の水温分布を毎年調査



### 春・夏・秋の川体験イベント



### 千種川をふるさとの誇りとして心にとめられるか

- ・水
- ・連続性
- ・生物多様性
- ・農業、農地維持、
- ・林業、森林
- ・防災
- ・気候風土



「よく知る」機会や取り組みをまちづくりや地域活動に！  
Chikusagawa Pride の充実を！

### 次のテーマに向けて 大持井堰が出来る前の苔縄付近の千種川



参考資料 2 – 参加者募集チラシ（表面）



**【開催趣旨】** 兵庫県内有数の清流といわれる千種川ですが、平成21年8月の台風9号による甚大な被害を受けて進められた河川改修により環境が大きく変化し、生態系や内水面漁業にかかる様々な課題が顕在化しています。本研修会では、千種川の河道内に形成された二次流路における小さな自然再生の実践を通じて、二次流路を生物の生息・生育・繁殖の場とするとともに、地域の環境教育や川遊びの拠点としていくためにできる取組を参加者とともに見試します。

開催日時	令和6年11月3日（日） 10:00～16:00
会場	兵庫県赤穂郡上郡町苔縄67 <座学：上郡町立赤松地区公民館 / 現地：千種川>
対象	小さな自然再生に関心のある方々
定員	50名程度（先着順）
参加費	無料
持ち物	胴長靴（ウェーダー）、防寒着、作業用手袋、昼食（弁当を事前注文可能 ※裏面参照）
プログラム	※プログラム及び講演タイトルは一部変更の可能性もあります。 ※主催者側で行事保険に加入いたします。

※参加申込方法、会場へのアクセス、  
問合せは裏面をご覧ください。

(10:00～11:30)	二次流路を生物の生息・生育・繁殖の場とするための座学研修 @上郡町立赤松地区公民館
-	開会挨拶
-	千種川に関する取り組み（横山 正：千種川圏域清流づくり委員会 ネットワーク部会長）
-	小さな自然再生のすすめ～千種川でできることはたくさんある～（三橋 弘宗：兵庫県立 人と自然の博物館）
-	この現場でできる小さな自然再生のアイデア交換 及び 午後の実践活動について（和田 彰：リバーフロント研究所）
(11:30～12:30)	昼食 ※駅や会場近くにコンビニ等はありません。各自持参or(裏面の)弁当注文をお願いします。
(12:30～16:00)	小さな自然再生の実践～二次流路でエコアップを見試しよう @千種川
-	二次流路への水量増加、水路掘削、湧水スポット保全、多様な流れの創出、魚の隠れ家づくり、モクスガニ袖網漁見学 等々
■	現地技術指導：三橋 弘宗（同上）、岩瀬 晴夫（株式会社北海道技術コンサルタント）
(16:00)	閉会



河川  
基金

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

主催：千種川圏域清流づくり委員会、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク  
協力：兵庫県西播磨県民局光都土木事務所、上郡町、千種川漁業協同組合  
公益財団法人リバーフロント研究所



## 「小さな自然再生」現地研修会（第26回）開催報告

～ 2024年11月3日（日）兵庫県上郡町・千種川 ～

2025年3月24日

【発行】

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

電話:03-6228-3861 Fax: 03-3523-0640

E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

※JRRN 事務局は、公益財団法人リバーフロント研究所が公益を目的に運営を担っています。